



府食第566号
令和2年8月7日

食品安全委員会委員長 佐藤 洋 殿

研究・調査企画会議

事前・中間評価部会 座長 山本 茂貴

令和2年度食品健康影響評価技術研究の2次公募における採択
課題（案）について

このことについて、令和2年8月4日に開催した令和2年度研究・調査企画会議事前・中間評価部会（第3回）における審議の結果、別添のとおり取りまとめましたので、報告いたします。

(別添)

令和2年度

食品健康影響評価技術研究の2次公募における
採択課題（案）について

令和2年8月

食品安全委員会 研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和2年度食品健康影響評価技術研究の2次公募における採択課題

受付番号 主任研究者名 (所属機関名)	研究課題名 (研究期間)	研究概要	評点 (20点満点)	評価所見
1 青山 博昭 (残留農薬研究所)	食品用器具・容器包装 に用いられるビスフェ ノールAのリスク評価に 資する科学的知見の検 討に関する研究(令和 2~3年度)	ビスフェノールA(BPA)のリスク評価に当たっては、この物質に関する 公表文献の中から適切な文献を抽出して、信頼性の高い情報を収 集・整理する必要がある。そこで、まず、食品安全委員会の調査を補 完すべく、BPAに関する公表文献を網羅的に検討・検索して、体内動 態調査、毒性評価、ばく露量評価、及び疫学調査のいずれかに属す る文献を抽出すると共に、ヒト研究及び動物試験については文献の 信頼度を評価するための統一的な基準をそれぞれ設定して、BPAの リスク評価に用いるべき信頼性の高い文献を選抜する。さらに、リス ク評価に資するようエンドポイント別の検討を経て、これらの文献の適 切な参照範囲とその用途を提言する。	15.8	<p>(総合コメント)</p> <p>文献の信頼度・妥当性を評価する統一的な基準設定が重要であり、今後の文 献評価の良い例となることを期待する。</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な成果を得るために、研究協力者の選定が重要である。 ・公募要領中の海外の3つの文書を十分に検討されたい。なお、研究期間中 にEFSAの再評価結果が公表された場合は、実際のプロトコールの運用等につ いても参照いただきたい。